



踏切事故をなくせ！ 踏切内に点字ブロック設置へ



国土交通省の資料から

視覚障がい者の踏切事故撲滅に向けて、県は踏切内の点字ブロック設置を進めることになりました。

2022年4月、奈良県内の踏切で、目の不自由な女性が電車にはねられて死亡する事故が発生。その前年にも、静岡県内で目の不自由な男性が電車にはねられて亡くなりました。どちらも踏切の外にいると勘違いしたとみられており、踏切内や付近に点字ブロックはありませんでした。

公明党県議団はこのことを重く見て、22年12月の代表質問で取り上げ、県内の踏切の改良を要請。県は、22年度中に県管理道路において整備が必要とされる28か所で、踏切手前までの点字ブロックを設置。しかし、踏切内までは設置できませんでした。

その後、今年1月、国交省は踏切の安全性向上に関するバリアフリー指針を改定。踏切内の点字ブロックの標準形状が決定しました。



来年度中に工事完了目指す

これを受けて公明党県議団は6月の代表質問で、「目の不自由な方が踏切内で事故に遭わないよう、県としても迅速に取り組むべき」と黒岩知事に要請。

知事は「バリアフリー法で特に障がい者の通行に配慮すべきと指定された3カ所の踏切を優先して、今年度中に点字ブロックを設置する。残る26か所の踏切についても25年度の工事完了を目指す」と答弁しました。

大和市内では、小田急線の県道40号（厚木街道）と、県道45号（中原街道）の踏切2か所で、25年度内に工事が行われる予定です。

これからも事故撲滅へ向けて、全力をあげてまいります。